写

いちのみやハイウェイオアシスプロジェクトについての提言書

～　未来型都市公園のあり方　～

特定非営利活動法人コミュネスいちのみや

100th
ICHINOMIYA CITY 2021
いちのみや市 100 周年市民チャレンジ事業

はじめに

我がまち一宮市は、雄大な木曽川に恵まれた、歴史ある濃尾平野に位置し、古くから交通の要所として栄えてきました。

その地の利を活かし、日本の大動脈である名神高速道路と木曽川が交差する都市公園にスマートインターチェンジを引き込み、市民が誇る一宮の魅力を最大限に発信する拠点とするとともに、市民も楽しめる新しいかたちの公園をパーク PFI により整備・運営したいと思います。

本プロジェクトは、17 年にわたり一宮市のまちづくり活動をしてまいりました NPO 法人コミュネスいちのみやが、「いちのみやハイウェイオアシス」の 2031 年のオープンを目指すものです。

愛知県、そして一宮市の西の玄関口であるこの地に、尾張一宮の歴史と誇りにふさわしいハイウェイオアシスを、官民連携まちづくりを活用して設置することで、地域を活性化させると共に、税金による維持管理がなくとも持続可能な都市公園を次世代に残していきたいと思います。

まちづくりは人づくり。市民自らが考え、まちづくりに取り組むための羅針盤となるよう、この提言書を提出するものです。

特定非営利活動法人コミュネスいちのみや
理事長　　則　竹　伸　也

目　次

1 経緯 5
2 プロジェクトの視点、冨田山公園の現状・課題 6
（1） 一宮のまちづくり 6
（2） 冨田山公園の現状 8
3 本プロジェクトのコンセプト 11
（1） ワクワクする一宮を創造・発信 11
（2） SDGs への取り組み 11
（3） カーボンニュートラルを意識 11
4 整備方針 11
（1） 雇用創出 11
（2） 農産物の出荷 11
（3） 一宮の魅力発信 13
（4） 多世代交流の場 13
（5） 未来型インフラ 13
（6） 産業の活性化 13
（7） アクティビティ体験 13
（8） 防災拠点 15
5 整備の方向性 17
（1） 憩いくつろぐ空間、集い食べる喜びを感じられる居心地の良い空間 17
（2） 木曽川と遊ぶ楽しさや学びの提供 17
（3） 多様な人々が交流する空間の創出 17
（4） スマートインフラを備えた機能性 17
（5） 大規模災害に対応した愛知県の尾張地区における防災エリア拠点 17
（6） ゾーニングの例 19
6 魅力あふれるアイデア 19
（1） 川の上のトイレ？（トイレ特集参照） 19
（2） スポーツ施設 19
（3） ネイチャーアドベンチャー施設 19
（4） 遠くからでも目印になるモニュメント 21
（5） サウナ、温泉 21
（6） 飲食系 21
（7） 宿泊 21
（8） マルチなイベント会場 21
（9） 木材の温かさが感じられる施設 21
（１０） 道の駅の併設 21

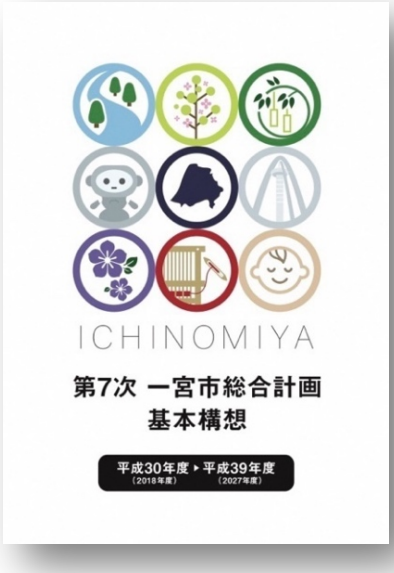
7 事業の進め方 22
（1） 新たな事業スキームの提案（都市公園リノベーション協定制度） 22
（2） 組織のあり方 22
（3） 方針の整理 22
（4） 事業費について 23
（5） パブリックコメント等による市民の参画 24
（6） スケジュール（想定） 24
8 有識者の視点 25
9 特定非営利法人コミュネスいちのみやについて 26
（1） 事業計画 26
（2） 主な事業実績 26

1　経緯

一宮市は、令和２年６月に「一宮市緑の基本計画」を定め、持続可能で緑豊かなまちづくりを目指す基本理念として、「水と緑で人がつながる 心ふれあうまち 一宮」と、その基本理念の実現に向け、「“いのちを紡ぐ”緑のまちづくり」、「“暮らしを織りなす”緑のまちづくり」、「“ともに育てる”緑のまちづくり」の３つの基本方針を定めた。

そのうちの３つめ、「“ともに育てる”緑のまちづくり」では、「一宮市の緑を次世代へ継承するため、市民や民間事業者等との連携・協働、都市公園法などの改正による新たな取組みを進めながら、多様な主体が一体となって緑をともに育て、活用する緑のまちづくり」を目指すこととしている。

近年の少子高齢化の進行、地球温暖化など環境問題の深刻化、多発する自然災害に対する防災意識の高まりや多様化するニーズなどの社会情勢の変化に伴い、平成２９年５月に都市緑地法をはじめとした緑に関する法律が改正され、国が推奨する「官民連携まちづくり」では、「従来のような行政主体のまちづくりでは限界があり、民の力を最大限活かす（頼る）ことが不可欠という発想の転換のもと、法改正や規制緩和が進んでいるところである。



第７次一宮市総合計画によると、本市の総人口は平成２４年７月の 38.6 万人をピークに緩やかな減少傾向となっている。そのため、社会保障関係費は増加し、市税等の増収も見込めない状況となっていくため、人口の規模やその構成に応じた施策を展開することが重要だとしている。

つまり、公園管理者である自治体も資産運用を考える時代に入ったのである。そして、国はその方針に従い、推進するための現行法改正を繰り返し、民間による連携を加速させている。

その一つの方策として、公共空間を民間で活用し、雇用を生み出し、まちづくりに寄与する都市公園の官民連携まちづくりの制度が創設された（図１）。

そこで、私たちは、新たな官民連携まちづくりのしくみを使って、民間活力を活かして、維持管理費を賄うだけでなく、一宮市民が誇りをもち、楽しみ、災害時に役立ち、全国に一宮市の魅力を発信する、一宮市の玄関口としてふさわしい、持続可能な都市公園の活用策として「いちのみやハイウェイオアシスプロジェクト」について提言する。

2021 年、一宮市は市制 100 周年を迎えた。私たちは、次の 100 年のはじまりとして、「いちのみや市 100 周年市民チャレンジ事業」に参加し、次世代に繋ぐまちづくりを考えた。

本プロジェクトは、一宮市が目指す都市将来像「木曽の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」の一つとなることを目指すものである。

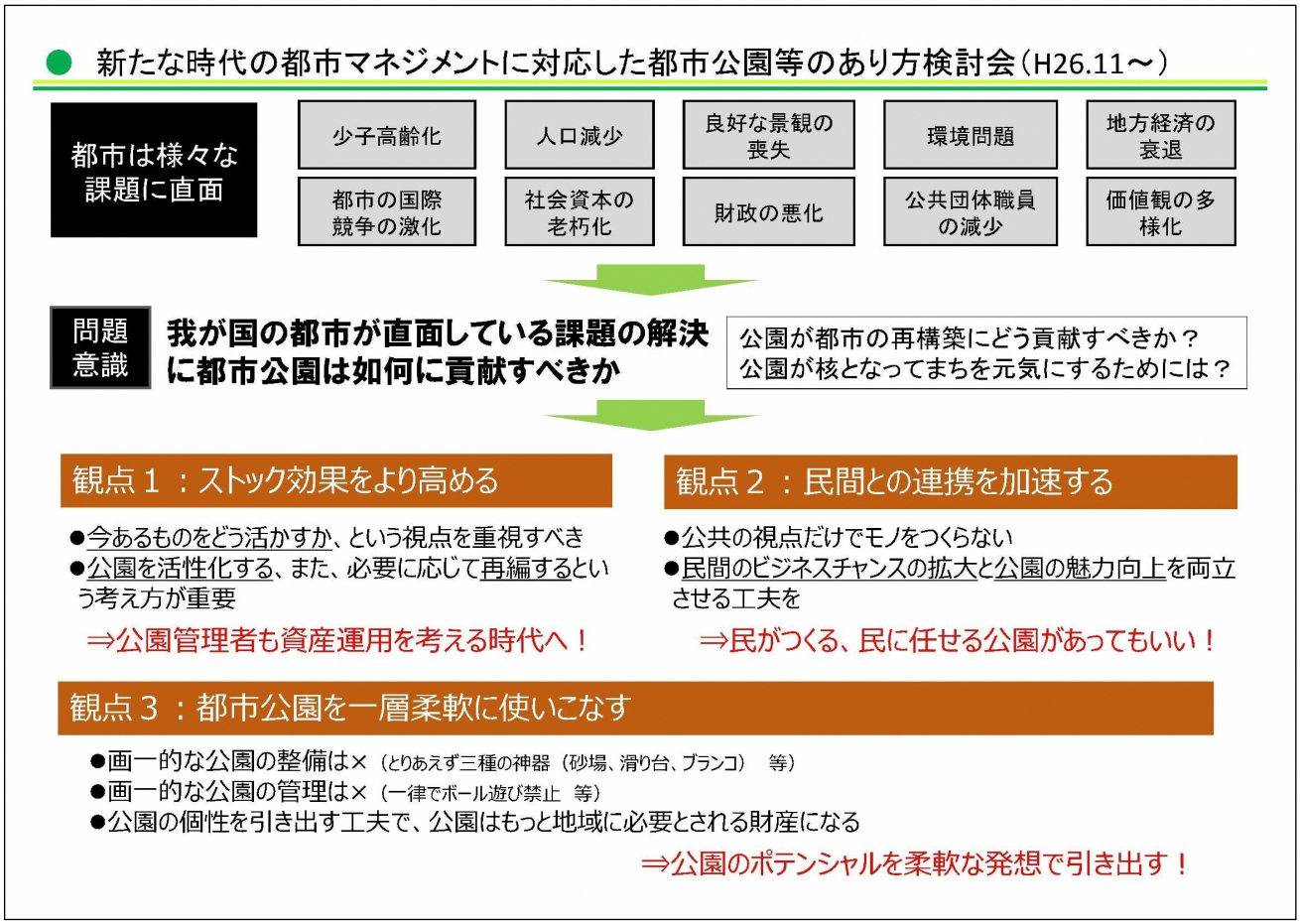


図１＜令和２年２月１２日 PPP／PFI 推進施策説明会　公募設置管理制度（パーク PFI)について　国土交通省都市局　公園緑地・景観課の資料より抜粋＞

2　プロジェクトの視点、冨田山公園の現状・課題

（1）　一宮のまちづくり

ア　官民連携まちづくり

わが国では、少子高齢化・人口減少社会の時代の変化によって、公共投資、行政サービスの効率化が求められる時代となり、従来のような行政主体のまちづくりでは限界があり、民の力を最大限活かすという発想のもと、公園や道路、河川に関わる官民連携まちづくりが進められている。それは公共空間をつくる時代から使う時代へ、さらには使いこなして稼ぐ時代に入ったということである。

その視点で約 9.3ha の冨田山公園を含むエリアを見渡した時、市民や高速道路利用者等の人々が賑わう空間を作り出すことができれば、民間にとって資源・チャンスとなり、公共は、これまでの安全の視点から、使う視点を加えて、この公園のポテンシャルを柔軟な発想で引き出すことができる。

イ　母なる木曽川の清流とともに

木曽川に 18 ㎞余りも接する、文字どおり「母なる木曽川」に抱かれた本市の姿は、特有なものであり、市民のアイデンティティーである。ここに、市民と多くの来訪者が訪れたくなる施設をつくることは、多くの人々の誇りとなり、自信となるものである。また、木曽三川三六景にも

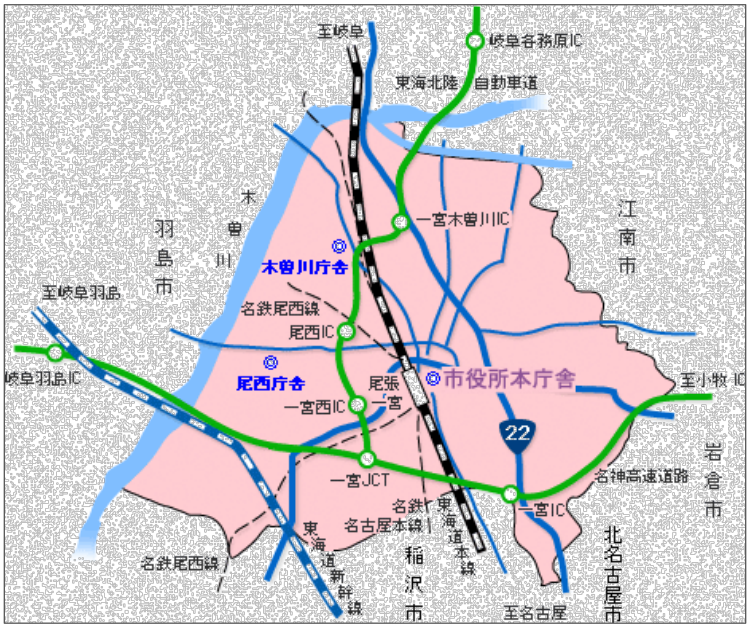
選ばれた、この水量豊かな木曽川の見事な景色は、人々を魅了し、ここにしかない観光資源としても、国内外に発信していく普遍的価値を兼ね備えたものである。

ウ　知・徳・体をもとに、課題解決に向かう「未来を拓く子ども」たちへ

一宮市では学校教育プラン（令和 2～4 年度）において、「自尊感情にあふれ、自他の命や自然を大切にする心や他を思いやる心などを備えた、心豊かな子ども」を目指しており、本プロジェクトを通して、一宮で育つ誇りや自信、大自然での体験を、子どもたちにもたらしたい。

エ　防災拠点としての都市機能の向上

本市を防災の視点で俯瞰すると、南海トラフ大地震などの大災害が起きた時、各方面につながる道路網が張り巡らされている地の利を生かし、大規模な避難先や、救援支援物資基地、川を使った輸送拠点としての機能等、防災拠点として都市機能を向上させることを考えている。



道路網が張り巡らされている（一宮市ホームページより）

（2） 冨田山公園の現状

ア　冨田山公園にかかっている維持管理費

このプロジェクトの舞台となる冨田山公園については、旧尾西市民プールが老朽化により使用されなくなるなど公園として十分に機能しているとはいえない現状だが、一宮市はグランピング事業などの再整備により賑わいの創出を試みているところである。

冨田山公園において、現在、尾西グリーンプラザや河川敷グラウンドなどの維持管理費は、年間約 7 千万円（令和 2 年度決算）余りである。これら公共施設の維持管理費が人口減少を迎える次世代にとって、負担になってくることは間違いない。

そこで、本プロジェクトでは、冨田山公園の利用者を増やす、にぎわいの創出に加え収益性を生み出すことで、維持管理費を軽減するだけでなく、通常の公園予算では不可能な、高付加価値な都市公園を目指すことができないかを考えた。

イ　名神高速道路と新濃尾大橋がもたらすもの

本プロジェクトの元となっているのは、当該公園を横切っている名神高速道路の利用者と、令和 5 年に新設予定の新濃尾大橋の利用者がもたらす賑わいの創出の可能性である。

以下に、参考とした刈谷 HO が接続されている伊勢湾岸自動車道の交通量と敷地面積を比較した表を掲載しておく。

一宮ＨＯが後述するスマートインターチェンジ（以下「スマート IC」という。）接続される名神高速道路の 1 日の通行台数は 60,000 台を超え、十分にその需要を見込むことができる。

なお、本プロジェクトにより生じる可能性のある交通渋滞についても今後検討が必要である。

＜名神高速道路通行台数等＞

	敷地面積	入込客数	売上高	雇用	2005 年度	2010 年度	2016 年度
一宮 HO	10ha	－	－	－	74,152 台	61,793 台	61,690 台
刈谷 HO	17ha	830 万人	90 億円	920人	43,572 台	72,804 台	84,791 台

（台数は交通センサスより）

ウ　パーク PFI※とスマートインターチェンジ（以下「スマート IC」という。）

本プロジェクトでは、パーク PFI の都市公園リノベーション協定制度を活用し、名神高速道路からスマート IC を冨田山公園内に引き込み、高速道路と新濃尾大橋の利用者を対象に、賑わいを創出する考えである（冨田山公園については、一部区域において、すでに公園施設の設置管理許可制度（パーク PFI ではない仕組み）による再整備を行っている。）。

また、本プロジェクトは、国がパーク PFI に期待するところ、「公園が核となってまちを元気にするためには？」、「公園管理者も資産運用を考える時代へ」、「民がつくる、民に任せる公園があってもいい」、「公園のポテンシャルを柔軟な発想で引き出す」といった方向性と合致する。

また、長距離移動する高速道路の利用者にとって休憩施設は、トイレ、休憩のほか、飲食や観

光といった側面も持ち合わせ、消費行動のほか、その施設や自治体のイメージに直結するものであり、魅力発信の絶好の場となる可能性もある。

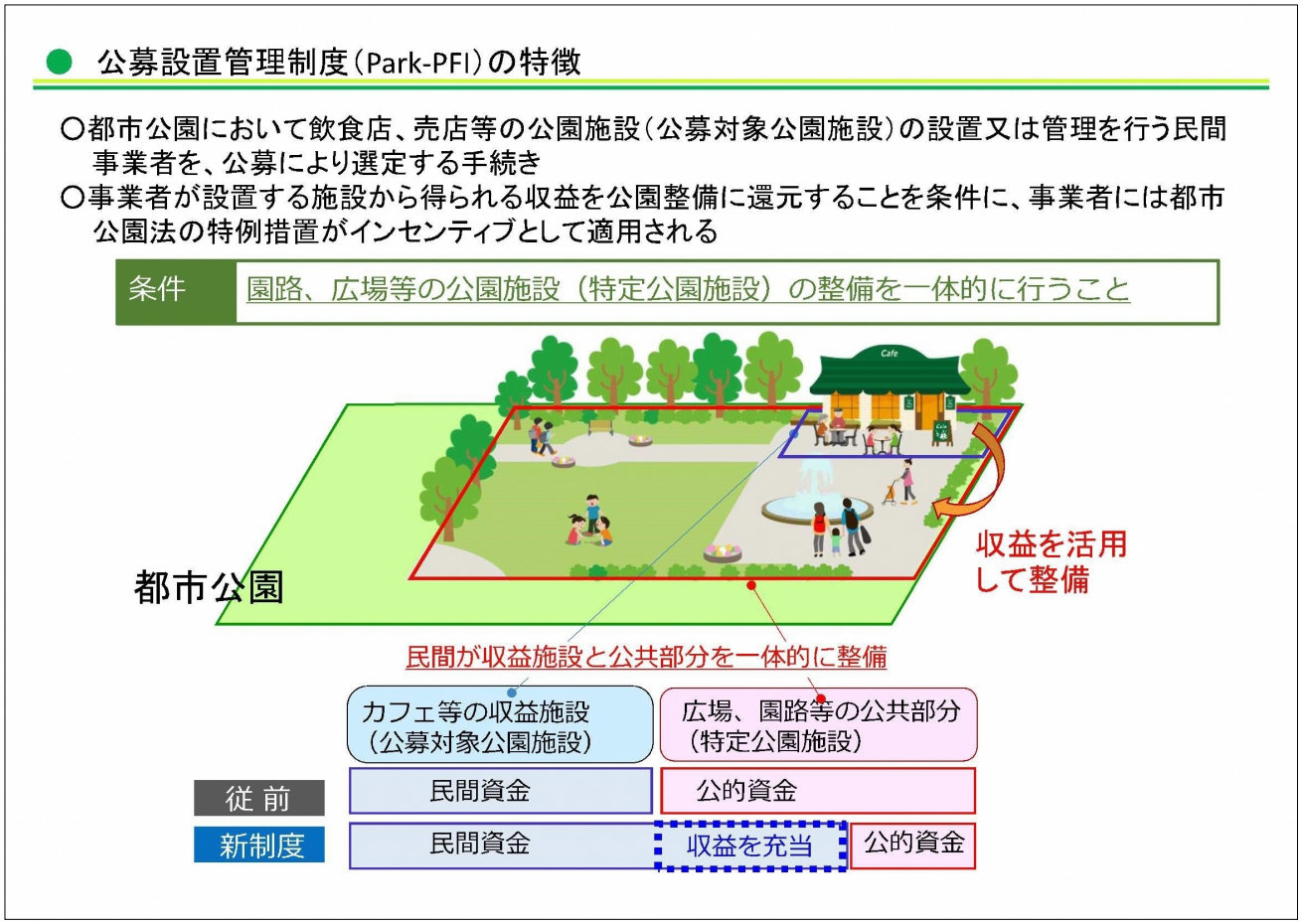
参考となるのは、パーク PFI という仕組みの構築の先駆けとなった同じく都市公園を活用した刈谷ハイウェイオアシスである。

※パーク PFI…公募設置管理制度（Park-Private Finance Initiative）

平成 29 年の都市公園法改正により新たにパーク PFI 制度が設けられた。パーク PFI 制度とは、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」のことである。

選定された事業者に公園施設全体管理を委ねることにより、収益施設を抱える事業者が公園施設全体の利用者満足度を常に向上させていくような高質な維持管理が行われていくことが期待できる。

下記の図２の中の「新制度」とは、後述する都市公園リノベーション協定制度を指す。



＜令和２年２月１２日 PPP／PFI 推進施策説明会　公募設置管理制度（パーク PFI)について　国土交通省都市局　公園緑地・景観課の資料より抜粋＞

図２

小さい街。

IHOPTの考える
理想の全体図もあるとかんたんなラクガキ
どんな建物？

ドライバー。
・おふろ
おんせん
シャワー
バーモンがに
何がほしい？

・「エ迫感」がない → 1階建て？壁が少ない？
壁はガラス？

おかねどんぐらい？
1食どこまで？
700？

居心地の良いと感じられる
空間作り → たくさんの部屋？
大自然？

メリハ
何が良かった？
何がイヤ？

女性多い？
ドライバー

何時下る？

© yuka design

IHOPT sketchbook

3　本プロジェクトのコンセプト

プロジェクトの視点、冨田山公園の現状・課題を踏まえ、本プロジェクトのコンセプトを以下のとおり提言する。

「身近なリゾートつくりませんか？～Highway Paradise!～」

（1） ワクワクする一宮を創造・発信

「一宮と言えばここ！」と誰もが誇れるワクワクする魅力的な場所を目指す。

母なる木曽川の清流に恵まれ、雄大な自然に囲まれたスケールの大きな空間や個性と風格ある空間、自然と遊び、地元の産直野菜を買って食べて、多様な人々と出会い交流し、歴史や音楽、モーニングや尾州など、新たな繋がりや価値が創造され、都市の活力の源となる場所を目指す。

一宮市の西の玄関口として、日本の大動脈を走る人々に、雄大な木曽川や一宮の魅力を発信する。

（2） SDGs への取り組み

目標達成と持続可能な社会の実現に向け、プロジェクトを通じて新しいライフスタイルを提案するなど、社会の課題解決に取り組むことを目指す（整備方針参照）。

（3） カーボンニュートラルを意識

国が策定した「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略（2020.10）」を意識し、経済と環境の好循環につなげるために、愛知県木材利用促進事業「あいち木づかいプラン」を活用するなど木材利用による炭素貯蔵などできることから取り組む。

4　整備方針

本プロジェクトのコンセプトに基づき、以下の分野において方針を示す。

（1） 雇用創出

ア　雇用創出の場

店舗（カフェ、レストラン、産直市場、温浴施設など）

自然教室の指導者、水辺スポーツインストラクター（サップ、カヌー）など

イ　誰もが働きやすい環境の整備

女性雇用支援、障がい者雇用支援、誰もに適したインクルーシブな雇用環境の整備

※インクルーシブ…「ソーシャル・インクルージョン」（社会的包摂）という言葉から来ており、これは「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う」という社会政策の理念

（2） 農産物の出荷

ア　産直市場

JA や地元農家と契約し、新鮮な野菜、花き、鶏卵の仕入れ、販売

イ　魚介類の販売

日本海からの直送限界点を活かし、北陸直送、伊勢湾直送の新鮮魚介、干物、しぐれなどの仕入れ、販売

雇用創出　・店舗
・指導者、インストラクター等
・女性雇用支援・障がい者雇用支援、

さまざまな分野の人を雇用することが可能
それにより多分野の人の交流の場にもなる？

・いろいろの分野の人が働けるということを伝えたい？

インクルーシブとは… → 「排除」をしない。
あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう
援護し、社会の構成員として包み、支え合うこと。

さまざまの職業の人が集まって笑顔な図

© yuka design

IHOPT sketchbook

ウ　地産地消レストラン

野菜、鶏卵、魚介など地産地消のレストランやカフェ

エ　日用品ストア

冨田山公園の辺地域における買い物難民の高齢者ための日用品販売

（3） 一宮の魅力発信

ア　尾州、モーニング

尾州製品の販売や、一宮モーニングの提供を行うショップ

イ　観光案内所

美濃路起宿の歴史、産業観光、特産物の紹介

（4） 多世代交流の場

ア　水辺スポーツ

一宮市が進めるミズベリング事業など、サップやカヌー、水辺でのスポーツが気軽に楽しめる環境、施設

イ　子ども川辺の生物観察

野鳥やイタセンパラなど、貴重な木曽川堤防の自然を学ぶ教室の定期開催

ウ　ボランティア活動

世代間交流、ボランティア活動の拠点として、また多様な人々が賑わうことにより生み出されるボランティア活動を支援する施設

（5） 未来型インフラ

ア　最新トイレ

ここにしかない雄大な自然と調和したテクノロジーを詰め込んだ夢のトイレの設置

イ　水素スタンドや充電スタンドなど

10 年後を見据えたエネルギー供給インフラとして、水素スタンドや充電スタンドを十分に供給できるだけの台数を設置

ウ　自動運転地域巡回バス

冨田山公園周辺地域における高齢者の買い物などのための自動運転によるタウンバスの運行

（6） 産業の活性化

ア　企業誘致

スマート IC 設置は、本市の主要幹線道路によるストック効果に相乗効果となり、企業誘致に有利になることに加え、広範囲にわたる自動車の流れに利便性が加わる。

イ　ドライバー専用施設（女性ドライバー専用施設）

日本を支えるドライバーのための施設を整備。特に女性ドライバーに必要な設備を設置。大雪時の待機場所として。

（7） アクティビティ体験

ア　雄大な木曽川と堤防を使ったあらゆるアクティビティ

既存のスポーツ施設、サップ、カヌー、野鳥観察、中洲探検、ドッグラン、BBQ 施設、キャンプ（オート、水上)、グランピング、野外コンサート、渡し船、クルージングなど

農産物の出荷

1 産直市場

・魚介類の販売 → 日本海からの直送限界点を活かす。

② 地産地消レストラン

・日用品ストア － 富田山公園周辺の高齢者のための日用品の販売も。

子や孫にたよらなくても
高齢者だけで買いものできるよ－

手には「いちのみや食ブランド」を。
「なす」「ねぎ」「大根」「桃かぶ」等、
地産地消をアピール。

地産地消レストランで…
あったらいいなと思う食べ物
イラスト？

ただただ"維持管理費を賄うだけでなく，地産地消。高齢者に優しい等，労働者や住民に優しいイメージをアピール？

IHOPT sketchbook

© yuka design

（８） 防災拠点

ア　愛知県の尾張エリアにおける防災拠点としての整備

防災ヘリポート、備蓄倉庫、大規模避難所、大型防災訓練の実施、救援支援物資基地の整備

イ　災害時の対応

大地震、大雨災害等の災害に対応する施設

＜整備方針と SDGs＞

（１）雇用創出
- 働く場の創出
  （カフェ、レストラン、産直市場、スポーツインストラクター、自然探検の指導者など）
- 誰もが働きやすい環境の創出
  （女性雇用支援、障がい者雇用支援等）

（２）農産物の出荷
- 産直市場
  （JAや地元農家と契約し、新鮮野菜、花き、鶏卵など）
- 魚介類
  （交通網を活かした新鮮魚介）
- 地産地消のカフェ・レストラン
- 日用品ストア
  （買物難民対策）

（３）一宮の魅力発信
- 138ショップ
  （尾州製品、特産物）
- 観光案内所
  （美濃路起宿の歴史と文化、尾州、モーニング、産業観光などの紹介）

（４）多世代交流の場
- 水辺スポーツ（ミズベリング）
- 子ども川辺の生物観察
  （野鳥、イタセンパラなどの自然）
- ボランティア活動
  （活動拠点や市民の発表の場として）

（５）未来型インフラ
- 最新トイレ
  （自然とテクノロジーの夢のトイレ）
- 水素スタンドや充電スタンド台数充実
- 自動運転地域巡回バス
  （自動運転によるタウンバスの運行）

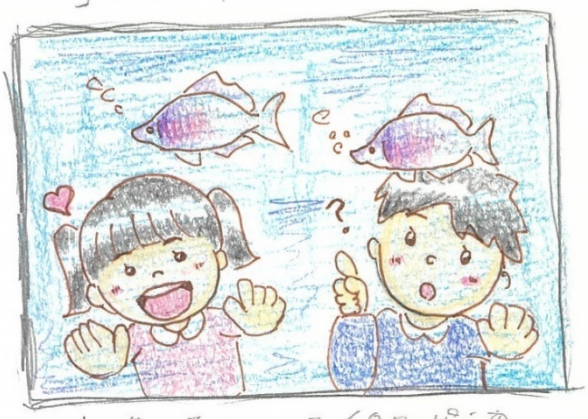
（６）産業の活性化
- 企業誘致
  （スマートIC設置により企業誘致）
- ドライバー専用施設
  （女性ドライバー専用施設）

（７）アクティビティ・体験
- 雄大な木曽川と堤防でアクティビティ
  （既存のスポーツ施設、サップ、カヌー、野鳥観察、中洲探検、ドッグラン、BBQ、グランピング、野外コンサート、渡し船など）

（８）防災拠点
- 尾張エリアにおける防災拠点としての整備
  （防災ヘリポート、備蓄倉庫、大規模避難所、大型防災訓練の実施、救援支援物資基地の整備）

© yuka design

子どもの川辺の生物観察



水槽に手をついてイタヤハラの観察をするキッズ

・野鳥トイタヤハラなど貴重な木曽川堤防の自然を学ぶ教室など

多様な人々が交流する空間の創出

誰もがアクセスしやすいユニバーサルデザインによる整備 アピール！

ヘリポートにもっ ほっぷ図.

南海トラフなどに備えて… 防災拠点についてのイラストも
あると想像しやすそうだが、なくても想像できるし、
どんな絵が良いのか

© yuka design

IHOPT sketchbook

5　整備の方向性

整備方針に基づき、以下のとおり、プロジェクト全体に関わる整備の方向性を示す。

（1）　憩いくつろぐ空間、集い食べる喜びを感じられる居心地の良い空間

訪れる様々な人が、それぞれ居心地が良いと感じられる空間を見つけられるようにすることが重要。

雄大な木曽川を感じながら憩う場所、産地の食材をみんなで楽しむ居心地の良い場所を感じられるために、低層で圧迫感のない広大な空間をいつも感じられるようにする。

（2）　木曽川と遊ぶ楽しさや学びの提供

ここにしかない水辺で遊び、自然を学ぶなど多様なアクティビティが共存し、安心安全に、そして快適に楽しむための拠点としてのエリアが複数必要。

（3）　多様な人々が交流する空間の創出

観光案内所やボランティア団体の活動拠点として、誰もがアクセスしやすいユニバーサルデザインによる整備を行うことが必要である。高齢者施設や障がい者施設からの来訪拠点としての役割も兼ね備えることも必要。

（4）　スマートインフラを備えた機能性

10 年後を見据えたエネルギーインフラを検討。水素スタンド、充電スタンドなど。カーシェア、空飛ぶ車？に対応した空間航路設定や駐車場の整備

（5）　大規模災害に対応した愛知県の尾張地区における防災エリア拠点

避難者収容のための広いオープンスペースを確保し、周辺地域や高速道路から避難しやすい環境を整え、ヘリポートなど広域避難場所としての機能を確保し、愛知県の尾張エリア全体の防災性を向上することが必要である。また、複数の高速道路が交差する地の利を活かし、救援支援物資基地としての役割も重要。

一宮の魅力発信。

・尾州・モーニング　商品やモーニングが食べれる場所。

・観光案内所。　美濃路起宿の歴史

一宮の魅力というか、昔からあるものを大切にし、
新しい型に変えて若者などに後世に残していきたい。
昔からの文化を大切にしたい。

観光案内所

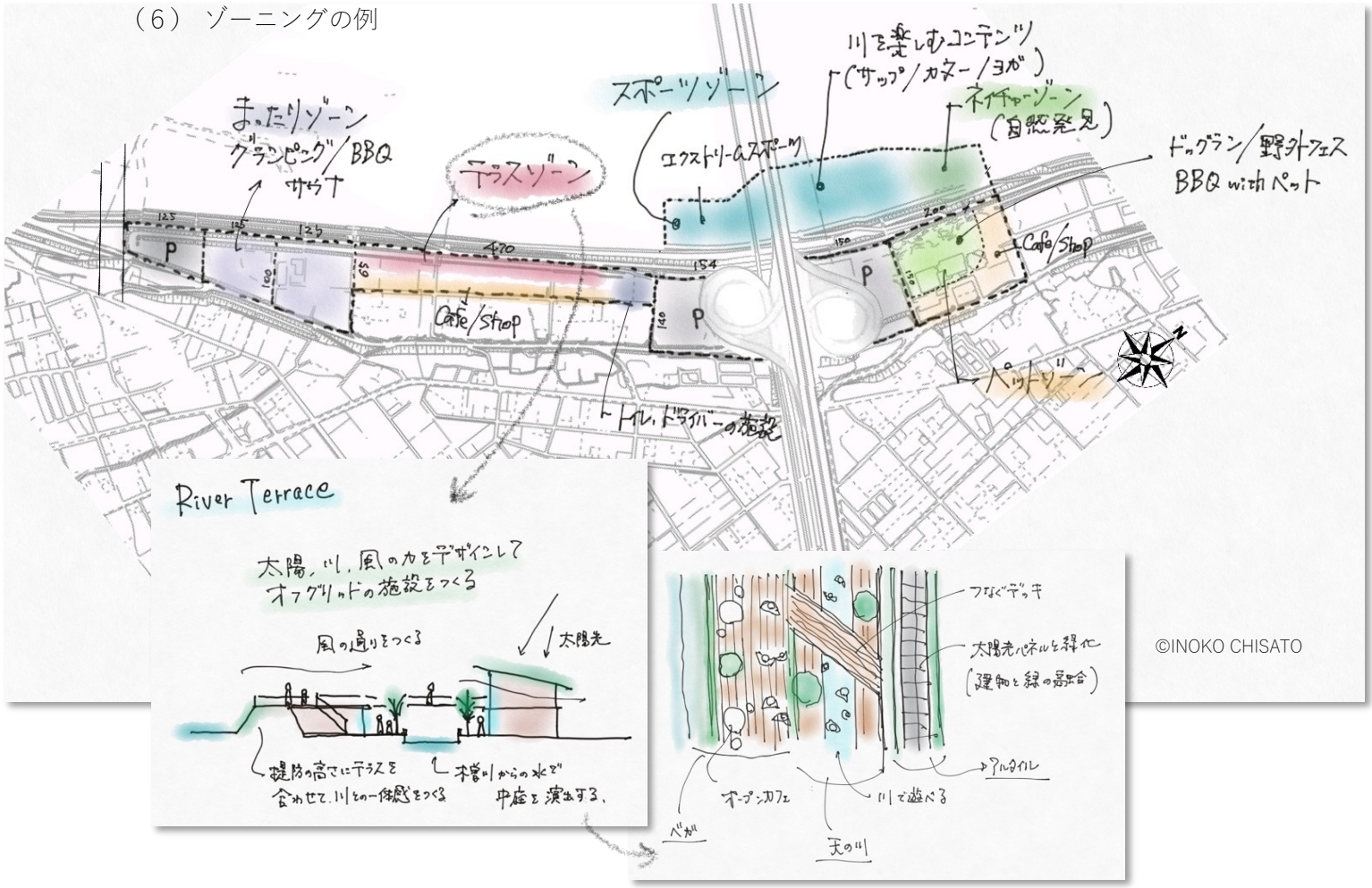
県外からきた人が
尾州のミソックに感激イラスト。

一宮ハイウェイオアシスができることによって
一宮のものが広く知れ渡るキッカケになることを
アピールする？

© yuka design

IHOPT sketchbook

（6） ゾーニングの例



6　魅力あふれるアイデア

（1） 川の上のトイレ？（トイレ特集参照）

高速道路や施設の利用者にとって、トイレは最も魅力的である必要がある。

ア　川の上のトイレ（トイレ特集参照）

イ　移動するトイレボックス

（2） スポーツ施設

ア　エクストリームスポーツ（BMX・スケボー・ウィンドサーフィンなど）

イ　国際トライアスロンができる施設

ウ　バンジージャンプステージ

エ　ウォーターレジャー施設

オ　川に打ち込む打ちっぱなし（ゴルフ・野球）

（3） ネイチャーアドベンチャー施設

ア　ファミリー釣り堀

イ　絶叫アスレチック

ウ　空中木曽川渡り

エ　人力観覧車

多世代交流の湯　（アクティビティ体験）

川や水辺の景観を活かした
まちづくり

○ 水辺スポーツ

ミズベリング事業？　— 官民一体の協働プロジェクト！

↑サップやカヌー

全国60か所ですでに取り組まれている！

例）→ 新潟市

信濃川で「アウトドア」と「健康」をテーマに民間主導の非日常空間を演出。

岡崎市

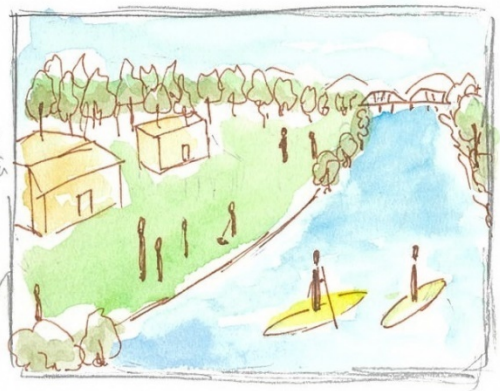
街並みと川が一体的となった歩いて楽しめる観光地へ。

一宮は平成28年から
木曽川を題材として
「ミズベリング138」を
始めている。

楽しそうにラフティングしている人達

かわいい絵

真面目な感じの絵



どういう空間？

○ サップやラフティングができる公園

© yuka design

IHOPT sketchbook

（4） 遠くからでも目印になるモニュメント

ア　大きな銅像

イ　風力発電風車

（5） サウナ、温泉

ア　夕日を見ながら入れるお風呂

イ　サンセットテラス(足湯付き)

ウ　テントサウナ

エ　川の中のサウナ、お風呂

（6） 飲食系

ア　オープンテラスで映えるスイーツを楽しむカフェ

イ　手ぶら BBQ 施設

ウ　キッチンカーブース

エ　究極のモーニング、一日中モーニング

オ　スイーツ食べ比べ

カ　AI ビーコンを活用したマーケティング

（7） 宿泊

ア　ホテル、車中泊スペース、オートキャンプ

（8） マルチなイベント会場

ア　お弁当をみんなで食べる広場

イ　結婚式場

ウ　地域の発表会

エ　映画祭の開催

（9） 木材の温かさが感じられる施設

木曽川のほとりで、木のぬくもりを感じる木造建築を推進し、癒し、和み、優しさを感じられる施設を目指す。

木の魅力や優れた使い方を広く普及し、木材利用を促進することを目的として、愛知県木材利用促進事業「あいち木づかいプラン」を活用した温かみのある施設を目指し、木造建築による炭素の貯蔵や森林の活性化など、木材利用によるカーボンニュートラルも意識する。

（１０）道の駅の併設

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省はじめとする各省庁では、様々な支援内容を用意している。下記のような支援を活用し、冨田山公園に道の駅を設置し、公園全体の付加価値を高めることも検討できる。

ア　道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等は、直轄道路事業及び社会資本総合交付金等の重点配分等により国土交通省が支援

イ　7 省庁 33 種類 42 対象施設ある補助金メニューの活用が可能

ウ　自治体・関係機関による協議会等を設け、複数の関係機関の制度の活用等について、ワンストップで相談できる体制

7　事業の進め方

冨田山公園が、ここにしかない唯一のハイウェイパラダイスとして誇ることのできる空間として、継続的に質の高い整備・維持管理がされていく公園となるために、以下の通り提案する。

（1） 新たな事業スキームの提案（都市公園リノベーション協定制度）

都市再生特別措置法等の一部を改正する法律（令和2年法律第43号）の成立・施行により、市町村が都市再生整備計画区域の中にまちなかウォーカブル区域を定めることが可能となった。

公園と木曽川・周辺地域が一体となった魅力的な公園として再生していくためには、一宮のまちづくりや公園に関わる関係者等が協力し、公園事業の主体となって整備や管理を担っていくことが必要である。

特に公園と高速道路、新濃尾大橋などの利用者が一体となった賑わいと人の流れを創っていくためには、ネイチャー施設、商業施設や賑わい施設等の関係者らの関わりが、極めて重要であり、自ら出資し、整備・管理・運営のあり方を地域の一員として考えていく責任と権限を持つような、主体的な関わり方が望ましい。さらに、一宮のブランド価値を高めるためには、地域や公園を盛り上げようとするプロモーション関係者等の関わりも重要である。

また、民間側にとっても、多くの人に利用される公園が実現すれば、収益も上昇すると考えられ、さらに、イベントそのものの価値を高めることによってプロモーション関係者等の自らの収益を高めることができる。

そうした収益増加の一部を、公園等の整備・管理・運営に充て、パーク PFI 制度で想定した効果を、公園だけでなく、一宮エリア全体にまで拡大した、いわば「エリアパーク PFI」と言うべき仕組みを実現することが必要である。また、行政としては、エリアパーク PFI を実現するための政策調整や民間が主体的に関わる仕組みづくりを策定していくことが必要であるとともに、必要な公共施設の整備のために費用負担を行っていく必要がある。

（2） 組織のあり方

パーク PFI 制度は特定公園施設等を公募という形で実現することにより、透明性と競争原理を確保している。

しかし、一宮エリアと一体となって持続的に公園の価値を生むためには、『担い手』を公募によって選定するスキームは周辺施設の分断につながるため、相応しくない。公園を中心としてエリア全体を持続的に発展させるためにも、担い手はあくまでも地域全体が主体となった組織とすべきである。

都市公園リノベーション協定制度の事業主体は、都再法第46条第14項第2号ロにおいて「滞在快適性等向上区域内の都市公園における当該都市公園の利用者の利便の増進に資する事業の実績を有する一体型事業実施主体等（一体型滞在快適性等向上事業の実施主体又は都市再生推進法人)」と規定されている。

（3） 方針の整理

上記に示した手法のほかにも、国土交通省では、都市公園の官民連携まちづくりについて、様々な手法が示されており、公園、周辺、運営手法など様々な観点から検討の上、最適なものを選択する必要がある。

それぞれのPPP/PFI手法の比較

以上で紹介したPPP/PFI手法の事業スキーム等を比較すると以下の表のとおりとなる。

	指定管理者制度	設置管理許可制度	PFI事業	P-PFI	都市公園リノベーション協定制度
根拠法	地方自治法	都市公園法	PFI法	都市公園法	都市再生特別措置法
期間	条例で定める（３～５年程度が一般的）	最長10年	最長30年	最長20年	最長20年
実施主体	法人その他の団体	公園管理者以外の者	民間事業者	公園管理者以外の者	一体型事業実施主体及び都市再生推進法人
実施主体の選定手続	条例で定める（指定には議会の議決が必要）	特段の規定なし	PFI法に基づく募集手続き（契約には議会の議決が必要）	都市公園法に基づく公募手続き	都市再生整備計画の公告・縦覧
実施主体による公園利用者からの料金収受の可否	可	可	不可（指定管理者の指定又は設置管理許可を得れば可）	可	可
対象となる都市公園	地方公共団体が設置・管理する都市公園	特段の限定なし	特段の限定なし	特段の限定なし	まちなかウォーカブル区域内の都市公園
特徴	・民間事業者等の人的資源やノウハウを活用した施設の管理運営の効率化（サービスの向上、コストの縮減）が主な目的。 ・一般的には施設整備を伴わず、都市公園全体の運営維持管理を実施。	・公園管理者以外の者に対し、都市公園内における公園施設の設置、管理を許可できる制度。 ・民間事業者が売店やレストラン等を設置し、管理できる根拠となる規定。	・民間の資金、経営能力等を活用した効率的かつ効果的な社会資本の整備、低廉かつ良好なサービスの提供が主な目的。 ・都市公園ではプールや水族館等大規模な施設での活用が進んでいる。	・飲食店、売店等の公募対象公園施設の設置又は管理と、その周辺の園路、広場等の特定公園施設の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度。	・官民一体でまちづくりに取り組む主体が、都市再生整備計画に基づき、都市公園内で、飲食店、売店等の滞在快適性等向上公園施設の設置又は管理と、その周辺の園路、広場等の特定公園施設の整備、改修等を一体的に行うものとして公園管理者と協定を締結できる制度。
都市公園法上の特例措置	―	―	―	・建蔽率の上限緩和 ・占用物件の追加	・建蔽率の上限緩和 ・占用物件の追加

＜まちづくりと一体となった都市公園のリノベーション促進のためのガイドライン～都市公園リノベーション協定制度の創設について～
令和２年１０月７日、国土交通省 都市局　公園緑地・景観課の資料より抜粋＞

（４） 事業費について

冨田山公園の維持管理費は、尾西グリーンプラザや河川敷グラウンドなど年間約 7 千万円（令和２年度決算・市にヒアリング）余が支出されている。

仮に、当該高速道路通行台数一日 6 万台の立寄率を 10%、1 台当たりの乗車人数を 1.5 人、消費単価を 500 円／人、収益率を 10%と仮定すると、年間 1 億 6 千万円が収益として生み出される。この場合、年間維持費 7 千万円を上回った分を 30 年間積み上げると約 28 億円の投資が可能となり、年間維持費分を含め約 48 億円が、市民へのメリットとなる。また、尾張地区一帯への経済波及効果も期待できる。

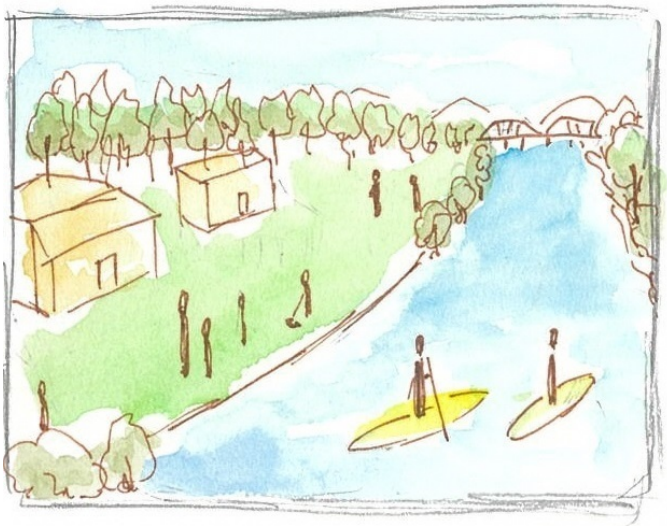
現在の公園維持を上回る民間を活用するスキームにより、より高付加価値な公園として次世代に繋ぐことができる可能性がある。

（5） パブリックコメント等による市民の参画

今後、官民連携まちづくりである本プロジェクトの立案に当たっては、有用性だけでなく、課題となる事柄、例えば必要となる敷地や渋滞、環境影響評価など、パブリックコメント等を行い、広く市民から意見を求めるなど、市民の参画に資することが重要である。

（6） スケジュール（想定）

いちのみやハイウェイオアシス	刈谷ハイウェイオアシスの実例
R2　一宮ハイウェイオアシス発案	H6　刈谷ハイウェイオアシス協議開始
R3　コミュネスいちのみや意見交換会の開催	H9　建設省（国土交通省）事業の承認
民設民営での可能性を検討	刈谷商工会議所意見交換会の開催
R6　国土交通省事業の承認	民設民営での可能性を検討
R7　民活の導入を図るため基本計画を修正	H10　民活の導入を図るため基本計画を修正
R8　「一宮ハイウェイオアシス㈱」設立	H11　「刈谷ハイウェイオアシス㈱」設立
R8　都市計画決定	都市計画決定(39.0ha)
R9　「㈱オアシスタウン一宮」の設立	H12　「㈱オアシスタウン刈谷」の設立
R13　第 1 期整備計画の開園	H16　第 1 期整備計画の開園(5.5ha)
施設の指定管理を	オアシス館刈谷の指定管理を
一宮ハイウェイオアシス㈱とする	刈谷ハイウェイオアシス㈱とする
R17　第 2 期整備計画主要区域の開園	H20　第 2 期整備計画主要区域開園(計 10.9ha)
公園全体の指定管理を	公園全体の指定管理を
一宮ハイウェイオアシス㈱とする	刈谷ハイウェイオアシス㈱とする
R21　都市計画変更	H24　都市計画変更(41.4ha)



© yuka design

「一宮ハイウェイオアシスプロジェクト」に寄せて

2022.2.25　岐阜大学工学部客員教授　加藤義人

日本は、経済の低成長が長引く中、財政赤字が構造化し、人口減少が加速していくという厳しい情勢下に置かれています。折りしものコロナ禍で、息苦しさに拍車がかかりました。こうした中、地方社会においては何とか明るい材料を探索してこれに着眼し、自ら活力ある地域づくりに取り組んでいくことが求められています。

2030 年代に向けた明るい話題の筆頭はリニア中央新幹線の開業だと思います。リニアの開業には、大きな経済効果、東京一極集中の是正、国土の強靭化という意義があります。一宮市はリニアの効果を享受できる優位な立地条件にありますから、これに呼応する地域づくりを展開していくことが、一宮市の持続的成長路線を軌道に乗せるために有効です。

コロナ禍でリモートスタイルを経験した我々は、大都市に依存しなくても良いという価値観に気づきました。2021 年に東京 23 区は転出超過に転じ、東京からの人口の流動化が始まっています。東京に縛られない時代とは、住み良さを追及する時代を意味します。名古屋、東京へのアクセスが良く、中核市として一定の都市機能集積を有する一宮市は、ポストコロナ×リニア時代に「選ばれる」都市になる資質が備わっていますから、一宮市の住み良さに磨きをかけるため、新たなまち自慢を創出していくことは大変意義深いことです。

「一宮ハイウェイオアシスプロジェクト」は、木曽川と名神高速道路が交わる冨田山公園に着眼した構想で、ランドマーク性と事業ポテンシャルの両面で高い可能性を持つプロジェクトだと思います。木曽川と一体となったハイウェイオアシスは、一宮市の新たなシンボルになるでしょうし、マーケットは高速道路利用者、一宮市民、広域住民の三層構造で期待できます。地域が内発的にまち自慢を創出することはシビックプライドを高めますので、住みよさ回帰の時代に向けて官民連携型で実現すべき優れたアイデアだと思います。

今後は、事業手法の組み立て、一宮市民の笑顔がはじける内容の具体化、事業パートナーの見極めなどに向けて検討されていくことと思いますが、まずは一宮市役所が本気になれるよう気運醸成を図ることが肝要です。事業構造と手法は行政が実務的に検討すべき課題で、地元財界は事業主体となるべく中身を深耕することが望まれます。その先には一宮ブランドの高まりが待っていることでしょう。一宮市の官民が一丸となって実現に向けて着実に歩まれることを忠心より祈念いたします。

加藤義人（かとうよしと）　　岐阜大学 工学部 客員教授・名古屋都市センター 特任アドバイザー

■東京理科大学理工学部土木工学専攻科修士課程修了後、㈱野村総合研究所に入社。
㈱東海総合研究所（現、三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング㈱）に移籍後、
名古屋を拠点にシンクタンク活動に従事。主席研究員、執行役員を経て退任。
■現在は岐阜大学工学部客員教授。有識者として幅広い地域づくりに関与。
テレビ番組のコメンテータとしても活動を広げている。
専門分野は社会資本整備等の経済効果分析、公共経営（PPP/PFI、行財政改革）を中心に地域づくり全般。
■現：公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター 特任アドバイザー
■公職等
国土交通省社会資本整備審議会道路分科会中部地方小委員会委員
愛知県行政改革の推進に向けた外部有識者による公開ヒヤリング座長
名古屋市公園経営アドバイザー
名古屋国際会議場整備運営事業（PFI）事業者選定委員会委員長など多数

© yuka design

９　特定非営利法人コミュネスいちのみやについて

コミュネスいちのみやは、愛知県一宮市の経済の活性化を目的に一宮商工会議所が 2005 年 6 月に設立した会員 50 名のまちづくり NPO である。

NPO コミュネスいちのみやは、一宮市の経済の活性化を主眼に置き、一宮市地域にとって必要な地域課題を解決するための行政と企業や、企業同士の連携を図る事業のパイプ役となるとともに、環境保全、子どもの健全育成、文化の振興、まちづくりに主体的役割をはたし、新たな雇用を生み出すと共に子どもから高齢者までが安心して暮らせる地域の発展に寄与することを目的としている。

（１）事業計画

ア　地域交通網に関する事業
イ　地域住民のコミュニケーション手段に関する事業
ウ　中心市街地活性化に関する事業
エ　企業間ネットワークの構築に関する事業
オ　環境行政の支援に関する事業
カ　まちづくりに関する調査・提言に関する事業

（２）主な事業実績

ア　中心市街地活性化に関する事業
・一宮モーニングプロジェクト
・一宮七夕まつりでの一宮駅西イルミネーション事業等

イ　企業間ネットワークの構築に関する事業
・産業の 6 次元化を目指し、さとうきびを栽培等

ウ　環境行政の支援に関する事業
・一宮市のゴミ減量とリサイクル
（オフィス古紙回収、オリジナルトイレットペーパー販売）

あとがき

「一宮と言えばここ！」と誇れる場所がほしい、できる？できるかもしれない？なんて言いながら女子 3 人で立ち上げた、いちのみやハイウェイオアシスプロジェクトチーム。

語り合うほどに楽しくなってしまう不思議なプロジェクトです。これに呼応するように、少しずつ仲間が増えてきて、これまで一宮のまちをつくってこられた諸先輩方の応援もいただき、NPO 法人コミュネスいちのみやとの協働事業に成長しました。「たくさんの市民に知っていただき、一緒に創り上げていきたい。」そんな想いでこれからも楽しく頑張っていきたいと思います。

市民団体いちのみやハイウェイオアシスプロジェクトチーム
通称：IHOPT（アイホープ）Ichinomiya Highway Oasis Project Team